

農業委員会が中心となり農地集約化を進めた事例 (佐賀県江北町)

平場・水田地域
農地集約化

地域の状況

- 江北町の担い手への農地集積率は94.1%と担い手への集積は進んでいるが、担い手の耕作農地が分散しているため、規模拡大をしても効率的な作業ができず、労働時間の短縮がされていない。
- リタイアする農家の農地の受け手は、その都度話し合いで探してきたが、大規模農家がリタイアすると、その農地全てを受け余力のある担い手はおらず受け手探しが大変になる。

(注)農地が担い手へ集積されているため、人・農地プランの区分としては実質化したプランとなっている。



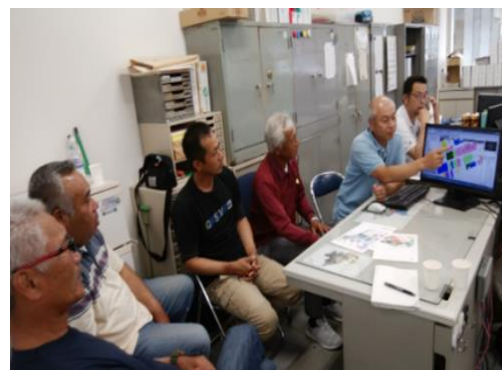
江北町

取組の内容

- 農業委員会会長・副会長は、担い手の農地が分散しているため効率的な営農が出来ないとの問題意識を持っていた。
- 農業委員会会長・副会長が中心となり、分散農地等の情報を収集し地図に落として、農業委員を含む地域の担い手と共有
 - ※ 農業委員会事務局は、会長・副会長が収集した農地情報を基に、提案する農地利用図を作成しサポート
- 農業委員会事務局(一部の農業委員)がコーディネーターとなり農地の意見交換会を開催
 - ※ 担い手からの自発的な集約化の提案を促すため、農業委員会からの提案型として開催
 - ※ 提案がまとまりやすいよう、1回を15分程度、対象となる担い手等を含め5~6名として8回に分けて開催
 - ※ 担い手には農地の状況が分かりやすいよう、色分けした「農用地利用図」を配布し、更にモニターに示しながら説明
- 今回(8月)の意見交換会は、町の耕地面積(1,060ha)のうち、14.7ha(62筆)、5法人・担い手14名を対象に開催

成果

- 意見交換会により、5.7ha(28筆)、担い手14経営体(うち4法人含む)の交換がまとまった。
- 交換した農家からは、「農地間の移動時間が短縮し効率化が図られた」と好評。
- 「集約化は農業経営の重要なポイントなので今後も地道に続けていきたい。」(農業委員会会長コメント)
- 「地域の農家に集約化の意識付けができたと思う。」(農業委員会会長コメント)



(意見交換会の様子)

<参考>

佐賀県担い手農地集約プロジェクト

佐賀県は、担い手の耕作農地の集約化を図り、効率的な経営体を育成することを目的として、担い手間の農地利用権の交換による農地集約化を進めるモデル地区を設置し、その取組を参考にマニュアルを作成し、他地域への展開を図ることとしている。

江北町は、そのモデル地区として選定され、県が取組を支援している。